

宮津市立府中小学校

(京都府)



～教室から日本三景「天橋立」が見える小学校～
京都府 宮津市立府中小学校

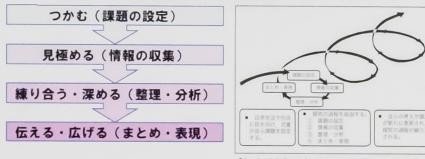
「ことばの力を培い、豊かな心をはぐくむ図書館教育」

～探究的な学習を通して、主体的に学び考え、多様な人とつながる力を育成する～

学習・情報センターとしての学校図書館

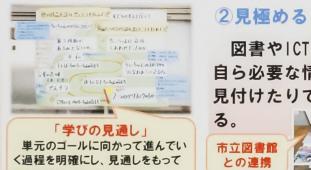
探究的な学習過程「府中小スタイル」

4つの学習過程を主体的・協働的に取り組む学習活動を通して、認知能力・非認知能力を一体的に育成する。



①つかむ（課題の設定）

分からぬことや知りたいこと、学級で考えたいことなどから、児童自ら課題を設定し、目的や必要性を意識して学習できるようにする。



③練り合う・深める (整理・分析)

集めた情報を整理して自分なりの考え方をもち、多様な人とつながりながら考えを広げたり深めたりできるようになる。



④伝える・広げる (まとめ・表現)

相手や目的に合わせて自分の考え方をまとめたり、表現したりできるようになる。



児童に身に付けさせたい力 「府中小ループリック」

児童に身に付けさせたい3つの力	(1) 自ら課題を見付け、主体的に学び考える力	(2) 課題解決のために情報を収集し、自らの考えを組み立てる力	(3) 相手や目的を明確にして表現し合い、多様な人とつながりながら学びを深める力
目標とする児童の姿	① 自ら課題を見付け、進んで解決していく。	必要な情報を探し、見つけたりしている。	集めた情報をもとに、自分の考え方を組み立てる。自分の考え方を繋ぎながら、意見を述べている。
高学年	教科や体験活動を通して課題を見出し、解決方法を考えることができる。	問題解決の手順を頭に入れて、問題解決を実践する。問題解決に必要な情報をもとに、自分の考え方を明確に表現することができる。	対話を通じて、多様な人の考え方と自分の考え方を関連付け、見方や考え方を広げようとしている。
中学生	教科や体験活動を通して課題を見出し、解決方法を考えることができる。	問題解決の手順を頭に入れて、問題解決に必要な情報をもとに、自分の考え方を明確に表現することができる。	他教科で培った表現力等を活用し、相手や目的に応じて手段を選択し、分かりやすく表現することができる。
低学年	教科や体験活動を通して課題を見出しことができる。	問題解決の手順を頭に入れて、問題解決に必要な情報をもとに、自分の考え方を明確に表現することができる。	集めた情報を整理し、自分の考え方をつないで、共通点・相違点を見付けることができる。

各学年の学習経験を踏まえ、系統を意識して作成しました。これまでにどんな力を付けてきたのか、これからどんな力を付けていくのかを教員間で共通理解を図り、授業づくりに生かしています。

学びの土台となる「ことばの力」の育成

『つたえタイム』



気付く力・伝える力・つながる力の育成



全学級で朝の会で行っています。どんなことでも聞いてもらえる温かい雰囲気を大切にしています。各学級の実態に応じてスピーチをしたり、テーマに沿ってペアトークをしたりしています。また、お互いに質問をし合うなどして、双方のコミュニケーションを意識して取り組んでいます。



毎週木曜日に行っているPTA、地域ボランティア、教員の読み聞かせでは、子ども達が様々な本に触れる機会となっています。子ども達がずっと本へと引き込まれていく朝の10分間になっています。

読書センターとしての学校図書館

読書環境の整備・充実

『学校図書館の環境整備』



児童に読んでほしい本を、季節やテーマに合わせて展示しています。展示は定期的に変更しています。本校には学校図書館に常駐する司書がいたため、全教職員で協力し合い、整備を行っています。

『市立図書館との連携』



『学年の図書コーナー』



『家庭(うちどく)』



読書活動の習慣化

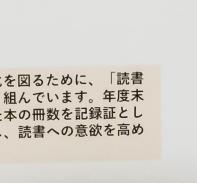
『読書貯金』



『週末読書』



『P.T.A.・地域ボランティアの読み聞かせ』



読書の習慣化を図るために、「読書貯金」に取り組んでいます。年度末に積み立てた本の冊数を記録証として全員に渡し、読書への意欲を高めています。